

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520903

研究課題名(和文) チェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換にみる国民的地域的再編と記憶の継承

研究課題名(英文) The Czechoslovakia-Hungary Population Exchange: National, Regional reorganization and Remembering its Memories

研究代表者

山本 明代 (Yamamoto, Akiyo)

名古屋市立大学・人間文化研究科・教授

研究者番号：70363950

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第二次世界大戦期に行われたチェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換とドイツ系住民のドイツへの強制移住による地域変容の社会的・文化的問題を考察した。ドナウ川以西地域での調査によると、住民交換とドイツ系住民の強制移住とは相互に深く関連していた。両政府が意図する単一国民国家の構想に対して、実際の移住者たちは固有の地域的アイデンティティを有しており、経済的利害が優先する場合もあった。住民交換で移住したハンガリー系住民、追放先から帰郷したドイツ系住民、避難民セーケイ人が混住した地域社会の再建は、各集団が抱えた追放のトラウマと強制移住の経験の違いによる対抗意識によって困難な道のりとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to explore the social and cultural problems of regional change as a result of population exchange between Czechoslovakia and Hungary and the forced deportation of German residents to Germany during and after WWII. This research focusing on the Trans-Danube region, especially Baranya Prefecture had clarified the population exchange between Czechoslovakia and Hungary and the forced deportation of German residents were deeply linked each other. As opposed to the concept of both government on single nation state, the migrants had peculiar regional identities, and on a certain occasion they had put priority on an economical interest. In addition, it was difficult task to reconstruct the regional communities in which Hungarian-Czechoslovaks, the German inhabitants who returned home, and the szekely refugees from Bacska had suffered their own trauma of deportations and had fierce rivalry based on difference in their experiences of deportations.

研究分野：西洋史

キーワード：住民交換 強制移住 第二次世界大戦 チェコスロヴァキア ハンガリー ドイツ系住民 アイデンティティ 記憶

1. 研究開始当初の背景

本研究は、第二次世界大戦後に行われたチェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換について、ドイツ系住民のドイツへの強制移住を含む東中欧における国民的・地域的再編過程の中で再検討し、その問題点を解明することを目的とする。

住民交換とは、マイノリティ問題の解決のために、隣接する国家が一般的には協定によって、相互のマイノリティ住民を交換する方式である(萩原直『東欧を知る事典』)。萩原によると、世界史の中で初めて行われた住民交換は1923年のローザンヌ協定に基づくギリシア＝トルコ間の住民交換である。第二次世界大戦期の東中欧では複数の住民交換が実施され、総計約250万人が強制的/自発的に他国へと移住し、各国マイノリティ住民の再配置が行われた。本研究が対象とするチェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換は1946年に協定が調印され、両国市民約10万人が対象となった。

(1) 国内外の研究動向と位置づけ

チェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換に関する研究は、国内では皆無であるが、1990年代半ば以降、スロヴァキアとハンガリー両国におけるナショナリズムの高揚を背景に活発化している。公文書史料の公開の進展も相まって、チェコとスロヴァキアの公文書史料を使用したハンガリー系スロヴァキア人研究者による住民交換に関するハンガリー語の資料集や研究書、回想録の出版が相次いだ。中でも、ヴァドケルティ・カタリンは、膨大な公文書史料に基づき、1945年以降に起こったハンガリー系チェコスロヴァキア市民の強制労働、国内移住、ハンガリーへの強制移住、残った住民への同化政策について詳細な研究を著わした。これに対し、ダグマル・チェルネによる第二次世界大戦期のチェコスロヴァキアとハンガリー間の外

交関係から住民交換の問題を考察した研究と、ハンガリー政府の領土修正主義に対する警戒感からチェコ人政治家主導の下に住民交換が計画・実施された点を強調したヤーン・ボバークの研究は、当時のスロヴァキア国民議会の政策の正当性を主張している。

前述したハンガリー系スロヴァキア人研究者の研究成果を共有するハンガリーでは、1990年代以降、国境を越えたハンガリー国民共同体の拡張に伴い、盛んに取り込まれるようになった周辺諸国のハンガリー系マイノリティ研究の一部として、この住民交換の研究を位置づけている。そのような中、注目すべき研究は、18世紀に移住したスロヴァキア系住民が集住するハンガリー南部に焦点をあて、地域における住民交換の問題を考察したクグレル・ヨーゼフの研究である。この視点から本研究の地域的再編を検討する構想の示唆を得ている。

これら両国における研究の問題点は、住民交換による両国国民の「被害」を強調する論調が支配的である点である。同時期に両国において実施されたドイツ系市民の追放という「加害」の問題と住民交換との関連性はほとんど検討されていない。そもそもこの住民交換はチェコスロヴァキアにおける国民の同質化を目的として、ドイツ系市民とハンガリー系市民の国外移住計画として開始され、ハンガリーではドイツ系市民の追放後の空いた土地にチェコスロヴァキアから強制移住したハンガリー系が移った。このような事実があるにも関わらず、前述した住民交換に関する研究だけではなく、「ズデーテンドイツ人」の追放の「チェコ＝ドイツ和解宣言」の過程を分析した矢田部順二も、ハンガリーのドイツ系市民の強制移住を考察したティルコフスキー・ロラントも住民交換との関連性については全く言及していない。そこで、本研究は、チェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換を両国におけるドイツ系住民

のドイツへの強制移住との関連性の中で捉え直すことによって東中欧における国民的・地域的再編過程を明らかにするものである。

(2) 着想に至った経緯

本研究は、申請者がこれまでに行った3つの研究から着想を得ている。一つ目には、科研基盤研究(C)「ディアスポラ研究」に取り組む中で、1920年のトリアノン講和条約によるハンガリーの領土分割後のハンガリーとスロヴァキアの関係に影響を与える国外移民・亡命者コミュニティの存在に注目する重要性を認識した。本研究の住民交換の政策決定過程に、ベネシウの臨時亡命政府以外に、批判的立場から影響を与えたアメリカ合衆国政府、および同国内のスロヴァキア系、ハンガリー系移民コミュニティ動向を検討し、広く国際的視点から住民交換の問題点を解明する必要がある。

二つ目は、ハンガリー王国の移民史研究の過程で、王国内のスロヴァキア語話者のアイデンティティの多様性、とりわけ地域的アイデンティティの多様性を認識した。住民交換の対象となったハンガリー南部のスロヴァキア系は18世紀の移住後、各地に大小のコミュニティを形成し、スロヴァキア国内のスロヴァキア系とは異なるアイデンティティを育んでいた。国民の同質性を追求した住民交換の過程でエスニシティの多様性はいかなる問題として現れたのかを検討すべきである。

三つ目は、ハンガリー南部の都市ペーチ市の近現代史に取り組む中で、ハンガリー南部では、第二次世界大戦後に追放されたドイツ系市民の土地に、住民交換によってスロヴァキア南部のハンガリー系市民が移住した事実を知った。しかしながら、既存の研究においては、住民交換とドイツ系市民の強制移住は個別の出来事として取り組まれている。こ

の両者の関連性を問うことが第二次世界大戦後の東中欧における地域再編の実態の解明には不可欠である。

2. 研究の目的

本研究では具体的に次の3点について取り組む。

a) 国際的・国内的議論から住民交換の政策決定過程を再検討する。住民交換の政策決定の過程を両国のみならず、連合国のマイノリティ保護の議論、チェコスロヴァキア国内の議論、および国外の移民・亡命コミュニティの影響の点から検証し、戦後のチェコスロヴァキアとハンガリーの国民国家建設の特質を明らかにする。加えて、第二次世界大戦後に両国において実行されたドイツ系住民の強制移住との関連性の中で再検討する。

b) 住民交換に伴う地域的再編の社会的・文化的問題を考察する。住民が交換されたスロヴァキア南部とハンガリー南部に焦点をあて、両地域のエスニシティ構成の変化によって生じた紛争、移住者の社会的適応、文化の衝突と変容の問題を検討する。

c) 住民交換の記憶の継承と補償に関する調査を行う。住民交換の記憶の継承の試みと補償に関する議論を調査し、スロヴァキア南部とハンガリー南部の2つの地域における住民交換の記憶の共有の可能性を探る。これによって、両国におけるナショナリズムの高揚に伴う「被害」の強調ではなく、ドイツ系住民の「追放」という「加害」を引き受ける地域の記憶のあり方を探る。

3. 研究の方法

本研究において対象とするチェコスロヴァキアとハンガリー間の住民交換の分析枠組みを構築したうえで、この問題を調査するために国内外において資料収集を行った。国内では北海道スラブ研究センターにおいて、国外ではスロヴァキア、ハンガリーを中心に、この問題に重要な影響を与えたアメリカ合

衆国政府と各亡命・移民コミュニティの動向についても、各国の国立文書館、国立図書館、県文書館、歴史協会等において、関係文書と当時の新聞記事の収集を行った。加えて、ハンガリーにおいて、住民交換と強制移住の記憶の継承に関する現地調査を行い、同時代の記録や近年刊行された回想録の収集と体験者のインタビューを行った。収集した資料を精読・分析して、日本語論文以外にも英語論文を執筆した。合わせて国内外で学会報告を行った。最終的には研究書にまとめる予定であり、現在執筆中である。

4. 研究成果

本研究の成果は下記に記すように、総論的内容と個別の事例に取り組み、学会発表と論文の発表によって行った。以下に主要な論文・研究成果の内容を紹介する

(1) 「第二次世界大戦後ハンガリーにおける住民交換と強制移住—ドナウ川以西地域を中心に—」

ハンガリーにおいて両国間の住民交換が最も盛んに行われたのは、ハンガリー南東部のベーケシュ県だった。18世紀以降にスロヴァキア人の入植が行われ、スロヴァキア系住民が多数居住していた地域である。住民交換によって移ってきたハンガリー系チェコスロヴァキア人は、スロヴァキアへの移住者の残した土地や追放されたドイツ系住民の土地を得ることになった。

他方、ドナウ川以西地域であるハンガリー南西部では、トルナ県とバラニャ県を中心にドイツ系住民が多数居住する地域だった。1946年から翌年にかけてドイツ系住民が追放された結果、その空いた土地に両県には住民交換による13,000人以上のハンガリー系チェコスロヴァキア人が移住することになった。ハンガリー政府の移住委員会が、住民交換によってチェコスロヴァキアに移住したスロヴァキア系住民が残した土地や生活

基盤の規模では、移住者の需要をまかなうことができないため、ハンガリー系住民の移住は全土的に実施される必要があると決定していたためだった。ハンガリー系住民の移住に伴って、ドイツ系住民の強制移住は強化されたのだった。

住民交換は、チェコスロヴァキア側では強制的、ハンガリー側では自発的移住政策として実施されたが、両政府が当初意図していたようなハンガリー系とスロヴァキア系との交換という単純な住民の入れ替えとはならず、次のような問題を引き起こした。第一に、資産の維持という経済的問題が起こった。両政府によって組織された移住委員会は、移住者に対して、手放した資産の規模に応じて同規模の土地や家屋を受けることを約束していた。しかし、特にハンガリーへの移住者に対して、同等のものを提供することが充分にできなかったため、ベーケシュ県の移住委員会には多くの陳情書が寄せられていた。第二に、住民交換に国民的アイデンティティに付随する問題が起こった。住民交換の対象となったハンガリーのスロヴァキア系住民は言語や姓名、コミュニティ活動においてすでにハンガリー化しており、自己認識の上でもスロヴァキア系というアイデンティティが乏しく、経済的メリットを目的に移住を決意した者も多かった。最後に、ハンガリーにおける住民交換の実施にはドイツ系住民の強制移住が深くかかわっていた。ハンガリー側では移住民に土地を提供するために、ドイツ系住民の追放を強化し、さらなる強制移住の加害に関与することになった。

(2) Forced resettlements of residents and population exchanges in Baranya County, Hungary, after WWII

第二次世界大戦期にハンガリー南部にあるバラニャ県では、ハンガリーとチェコスロヴァキア間の住民交換、セーケイ避難民の流入、ドイツ系住民の強制移住が起こった。第

二次世界大戦期のハンガリーにおける複数の強制移住がどのように実施され、いかなる問題を当事者と地域社会にもたらしたのかを考察した。

1941年の国勢調査によると、ドナウ川以西南部地域のスロヴァキア母語人口はわずか347人だったが、同地域から住民交換によってチェコスロヴァキアへの移住を申し出たのは873人に及んだ。国勢調査による母語人口よりも移住申請者数の方が上回っていたことから、両政府の意図とは別に自発的移住者の間に経済的利害があったことが推測される。

ドイツ系住民をドイツに追放した後、1947年4月から約一年間で、バラニャ県にチェコスロヴァキアから移住したハンガリー系住民は6,209人だった。隣のトルナ県とともに全国でも移住者が最も多い県だった。それは、ハンガリーからの自発的移住者の数よりもチェコスロヴァキアから強制的移住を強いられた者の数の方が大幅に上回っていたことが一つの要因だった。さらにチェコスロヴァキアのハンガリー系住民が土地や住宅を所有していたものが大半だったのに対して、スロヴァキアに向かったものは資産をあまり持たない若年者が多かった。そのため、ハンガリー政府は移住者を全土的に受け入れる必要があると各県に通達を出した。

バラニャ県のFとVでは、追放され、のちに戻ったドイツ系住民、住民交換によるハンガリー系移住者、避難民として移住したセーケイ人の複数の証言者から聞き取り調査を行った。ドイツ系住民からは強制移住の経緯なかでも追放対象者の選定が恣意的であったこと、1941年の国勢調査でエスニックの帰属をハンガリー系と答えた者であっても追放を強いられたこと、カトリック教司祭との親しい関係によって対象とされた疑いがあったことなどが証言された。住民交換に関しても、チェコへの強制労働への理由とされ

た「戦争犯罪者」のレッテルがハンガリー系住民に付けられ、ハンガリーへの強制的な移住対象者とされた例も見られた。また、同村出身者であっても複数の村落に分散して移住することを強いられた。この方針は提供される土地と家屋の数によるものだったとも考えられるが、それによって同村出身という共同体の紐帯が分断されることになった。

住民交換によって移住したハンガリー系チェコスロヴァキア人も避難民として到着したセーケイ人もハンガリー政府の構想では、ハンガリー国民と同様のハンガリー人であった。第二次世界大戦後にポーランドやチェコスロヴァキアが目指した単一国民国家形成をハンガリー政府もまた目標としていたのである。しかし地域社会では、各エスニック集団が有した強制移住の経験と特徴が際立ち、政府が強いた複数の強制移住によってこんにちまで続く問題を抱えることになった。住民交換によって移住したハンガリー系、追放先から逃亡し帰郷したドイツ系、セーケイ避難民が混住することになったバラニャ県では、剥奪された資産が回復されないまま、戦後、各エスニック集団が個々に抱えた追放のトラウマとエスニック集団間の対抗意識によって地域社会の再建は困難な道のりとなった。

研究の目的に掲げた3点のうち、「a) 国際的・国内的議論から住民交換の政策決定過程を再検討」は、調査の過程で、近年、ハンガリーとスロヴァキアにおいてかなり研究が進み、充実した論文集や資料集が編纂されていることが判明した。そのため、本研究では、目的の「b) 住民交換に伴う地域的再編の社会的・文化的問題を考察」を中心に、「c) 住民交換の記憶の継承と補償に関する調査」を視野に入れて行った。

は下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

(1) (翻訳の解説) 山本明代「民族浄化・ジェノサイド研究の現状と課題」, ノーマン・M・ナイマーク著、山本明代訳『民族浄化のヨーロッパ史—憎しみの連鎖の20世紀』刀水書房、2014年、pp.294-321.

(2) 山本明代「移民ネットワークの結節点: ドイツ人移民センター: 多様な移動の歴史を知る」, 北米エスニシティ研究会編『北米の小さな博物館3』, 査読無, 彩流社, 2014年, 214-223頁。

(3) 山本明代「近代社会のダイナミズム: 移民」, 大津留厚ほか編『ハプスブルク史研究入門』, 査読無, 昭和堂, 2013年、168-173頁

(4) Yamamoto, Akiyo, Forced resettlements of residents and population exchanges in Baranya County, Hungary, after WWII, 査読無, *Mediterranean Balkan Forum*, Vol.7, NO.1, 2013, pp.9-23.

(5) 山本明代「第二次世界大戦後ハンガリーにおける住民交換と強制移住—ドナウ川以西地域を中心に—」, 山本明代編『東中欧・バルカン地域における職能集団をめぐるインターカルチュラル圏の形成と変容』, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科、2012年、13-23頁。

〔学会発表〕(計6件)

(1) Yamamoto, Akiyo, The Current Situation and Issues of Ethnic Cleansing Studies, Workshop: Research for the Movement of People and Goods in East-Central Europe and the Balkan Regions, May 17, 2014, Nagoya City University.

(2) 山本明代、日本アメリカ史学会第10回年次大会・大シンポジウム「移民の国アメリカ合衆国における非自発的移動」, コメント, 立命館大学, 2013年9月21日。

(3) 山本明代「第二次世界大戦期ハンガリー・バラニャ県における強制移住と住民交換」, ワークショップ「地域の『対外的境界』と『内なる境界』」, 地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ, 2013年1月12日、東京外国語大学。

(4) Yamamoto, Akiyo, Regime Change and Border Crossings in Modern Asia: Transnational Politics, Religion and Social Spaces (Discussant), American Anthropological Association, Annual Meeting, November 17, 2012, Hilton San Francisco.

(5) 山本明代「歴史から学ぶ共生を阻むメカニズム 第二次世界大戦後ハンガリーにおける強制移住と住民交換を考える—」, 名古屋歴史科学研究会・歴史学入門講座, 2012年5月12日、愛知県青年会館。

(6) Yamamoto, Akiyo, Population Exchange and Forced Deportation in Hungary after WWII, Workshop: Intercultural Zone of Vocational Groups in East-Central Europe and the Balkan Regions: Its Formation and Transformation, November 5, 2011, Nagoya City University.

〔図書〕(計1件)

翻訳: ノーマン・M・ナイマーク著、山本明代訳『民族浄化のヨーロッパ史 憎しみの連鎖の20世紀』刀水書房, 2014年, 総頁数371。

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本明代 (YAMAMOTO AKIYO)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号: 70363950

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし